



進路だより



R6年度 1月号

～ 大学入試について ～

インフルエンザ等の感染症が全国的に流行する季節になりました。感染症の最高の予防法は「手洗い、うがい」に加え、「換気」「マスク」です。可能な限り実践しましょう。

3年生はいよいよ大学入学共通テストが今週末にあります。その後、自己採点による得点を参考に自分の受験先を決めなければなりません。国公立大の二次試験や私立大入試のための勉強と並行してしっかりと大学を調べ、担任の先生や保護者の方ともよく相談しながら、納得のいく選択をしてください。

1・2年生は共通テストまでそれぞれ、あと2年・1年です。特に2年生は今学期を3年生0学期の意識で受験勉強を始めなければなりません。今まで受けてきた記述模試に加え、2月には共通テスト早期対策模試が実施されます。この「進路だより」を参考にして、共通テストがどのような試験なのか理解してください。そして、公表される共通テストの問題にぜひ挑戦してみてください。

大学入学共通テストについて

1. 共通テストとは

共通テストは、毎年1月の中旬に2日間にわたって行われます。マークセンス方式のテストです。各大学は合否判定に利用する教科・科目と配点を事前告知するので、受験生は志望校に必要な科目を受験します。共通テスト後には自己採点を行い、その結果から個別学力検査の出願先を決定します。

2. 受験者数について

2025年実施の共通テストには、約50万人が出願しています。全国の高校生がライバルになる、とても大規模な試験です。

3. 日程と時間割について

2025年実施の共通テストは1月18日(土)・19日(日)で、右のような日程・時間割となります。出題教科・科目は6教科※21科目で、実際に受験できるのは、数学2科目と地理歴史・公民2科目、理科2科目を含む、最大6教科9科目です。志望校の入試に合わせて受験します。現在、多くの国立大で6教科8科目が課されており、教科のバランスが重視されています。また、外国語で英語を選択した場合、筆記試験に加えてリスニングテストが必須となっています。

※地理歴史・公民を合わせて1教科と数えています。

4. 出題形式・時間・配点について

共通テストはすべてマークセンス方式です。高校3年間の学習事項が出題の対象となり、すべて教科書の内容から出題されます。各教科の試験時間・配点は右の通りです。

【試験教科・時間】

日	教科	時間
第1日	地理歴史 公民	2科目選択 9:30～11:40 ※1 1科目選択 10:40～11:40
	国語	13:00～14:30
	外国語	【リーディング】15:20～16:40 【リスニング】英語のみ 17:20～18:20 ※2
第2日	理科	2科目選択 9:30～11:40 ※1 1科目選択 10:40～11:40
	数学①	13:00～14:10
	数学②	15:00～16:10
	情報	17:00～18:00

【1科目あたりの試験時間・配点】

教科	試験時間	配点
国語	90分	200点
地理歴史	60分	100点
公民	60分	100点
数学①	70分	100点
数学②	70分	100点
理科	60分	100点
外国語	【リーディング】 80分	100点
	【リスニング】英語のみ (解答時間) 30分※2	100点
情報	60分	100点

※1 地理歴史及び公民並びに理科のグループ②の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とする。

※2 リスニングは、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とする。

<令和年度大学入学共通テスト大学入学共通テスト受験案内より>

【報告】第2回南高教養アップ講座

「何のために学問をするのか？」

12月18日(水)13時30分～14時30分に、本校会議室を会場に、南高教養アップ講座を開催いたしました。今回は、京都大学大学院文学研究科宗教学専攻博士後期課程2回生の鳥居千朗氏をお招きしました。「何のために学問をするのか？」というテーマのもと、哲学とは何なのかの説明や、読書の意義について、分かりやすく講義していただきました。参加した生徒の感想を紹介します。



- ・哲学を学ぶ人は、もともと本を読むのが好きだったり、学ぶことが好きだったりして自分とはかかわりのない世界だと思っていました。しかし、講師の方が大学に入る前にやりたいことがなかったという話や、生きる意味を考えていたという話を聞いて、今の私でも共感できる部分があると思いました。哲学のハードルが下がった気がしました。
- ・印象に残っているのは、そもそも学問とは何かという話です。講師の先生は、学問とは本来「語る」ことだとおっしゃっていました。私は、学問とは学校生活を送っていく中で知識を身に付けることだと思っていたので、講師の先生の話聞いて、学問はもっと楽しいものであると考えるようになりました。
- ・読書は自分の中では優先度合いの低い趣味でしたが、今日の講座を聞いて、読書という行為の見方が大きく変わったように思います。本を読みたくなりました。
- ・本を読むということは、ただ字を読んで内容を把握するという認識でしたが、筆者の考えと自分の考えを融合させることで自分の世界を開けると分かりました。また、亡くなった先人からもその考えを得ることができるのが面白いと思いました。
- ・哲学というと人間や世界の存在について考えるような、私たちの社会と切り離された学問のようなイメージがありましたが、哲学で得たことが実社会に生きる自分の考え方として生かせることや、すべての学問の起源であり、学問そのものであるということに驚きました。「哲学はこの世界を生き死んでいくためのお守りであり、武器である。」と聞き、予測不可能だと言われている今の時代を生きる指針として、先人の優れた考え方をすることも大事だと思いました。
- ・自分自身、なぜ生きるのか、世界って何だろうといったことを考えるのが好きだったので、かなり興味を持って講義を聞くことができました。哲学とはそもそも何だろう、なぜ哲学を学ぶのだろう、という話から始まり、自分が学ぶ姿勢や心持ちについて視点を変えることができました。
- ・私は今までのりくらしと生きてきて、大学や社会に出ても同じように過ごすのだろうと思っていました。しかし、この講義を受けて、そのような生き方では時間を無駄にしている気がしました。大学で有意義な時間を過ごすために、高校生活で自分の興味のあることや自分が不思議に思っていることを何か一つでもいいから見つけておこうと思いました。
- ・本を読むことで新たな知識や思考が身に付き、それが生き方に直結することが分かりました。哲学書を読むことも大切であると教えていただきましたが、どのようなものが良いのか、いまいち分かりませんでした。ですので、学術文庫のコーナーから1冊手に取り、とりあえず読んでみようと思います。これまで学んでいたものを材料として、「読む」とはどのようなものなのかを体感してみたいという気持ちが高まってきました。
- ・先生の勉強に対する思いがとてもすごいと思いました。周りのものにとらわれず、自分の生き方を貫いているのがかっこいいと思います。専門的な学問の読書を通して、新しい自分に変えていきたいです。
- ・今まで自分がイメージしていた哲学は、人生の格言のようなもので、一人でひたすら悩み考えるものだと思っていましたが、今回の講義を受け、大きく印象が変わりました。自分は、大学は就職のために行くものだとばかり考えていましたが、ただ疑問を解決するため、学ぶためにいくという考えもあることを知りました。
- ・今日の講義を聞き、哲学はどの学問よりも奥が深いのではないかと思います。今の時代はAIや技術が発展していく中で自分の好きなこと、自分なりの考えを持つことが重要視されていると感じていて、「自分だけのもの」を見つけることはとても大切であると思います。AIと人間の関わりが話題になることも多いですが、今ここに自分がいることがすべてという哲学は本当に難しいと思いました。